

小田原史談

第 3 号

発行所 小田原史談会
小田原市幸一丁目
郷土文化館内

現代 小田原大秘録 (二)

石井富之助

与九郎も名人で、父と居合の稽古をしていたが、此頃では五角の腕前になったので、高慢の鼻を高くしていた。彌兵衛は「我と居合を五分にいたしても、まだ免許は与えるわけにはいかない。しかし、我等のすきを見ていつなりとも打つことができたら免許を遣わそう」と言った。

与九郎はいろいろ工夫をこらし何とかして打ち込もうと心掛けたがさらにすぎがなかった。ところがある日食事の時、父に給事していた与九郎は父の虚をついて杓子で打ちこんだ。そこで彌兵衛は約束だからと免許を与えたが、松下阿随は大いに怒って「たとえ息

なればとて、このようなことで与九郎に伝授するとは心得難い」と同門の杉山に話した。

杉山宗五郎という者は金成の鎗術の門下であったばかりでなく、剣術、鉢術に妙を得、浅山一伝流を森田三太夫に学んでいた。

ある日、彌兵衛は杉山が稽古最中の時その稽古所の脇を通り、しばらく立ちどまって音をきき山井流の剣術居合の稽古だなどと思つて通りすぎた。その日杉山が金成の宅を訪れた折、彌兵衛はこう言った。

「それがし今朝御門前を通りましたが、そこもが御受太刀の様子で、また居合の音とお察しいたしまし

た」

杉山はこれ聞いて「どうしてまた私が受太刀とお察しなされましたか」

「竹刀の研え音をもってそこもとと思いましたが」杉山は非常に喜んで「どこかいたらぬところがありましたらお教えいただきたい」

「気の毒ながら、そこもとの剣術もとかく眼が邪魔になるように思いました」金成のこの言葉を聞いて杉山は心中大いに喜び、それからいろいろ聞きただすところがあつたが、金成はさらに語をついで、

「まだそことはせがれほどにも参らないから、与

九郎とまず居合を抜いて見給え」

そこで杉山宗五郎は与九郎と抜き合はしたが一本もとることができず、さすがの宗五郎もへきえきして帰って行つた。

それから一心に稽古に励んだので、技はみるみる上達し、すでに上手という風評が高くなつた。金成はこれを見て、与九郎にもおとらぬほどだが、せがれの居合はさやに納るところが早いと云つた。上達するのももっとものことで、杉山、村越主膳、須田舎人の三人は日に千本ずつ、三年間稽古したといふことである。

その頃終日稽古の催しがあつたが、松下阿随は長刀をもつて朝六ツ時から受初め、その日の四ツ過ぎ時分まで、息をもつがず火々を散らし、秘術をつくして百二十人を受けとめ平然としていた。与九郎はこれを見て大いに憎み、鎗で立合おうと進み出るのを、父彌兵衛は「それが持病だ」と扇子で与九郎の頭を打って押しとどめた。

夕暮になって松下は望みにまかせて立合おうと言つた。与九郎は「百二十人と

引きくらべて見給え」と言つて、五本手合せしたところ、松下は四本までとられてしまった。その時、彌兵衛は「こういうことができるか」と言つて、庭の枇杷の笑を鎗の穂先で一つずつ突いて落し、また突いてゆすぶると枝や葉は大ゆれにゆれたが笑は一つも落ちなかつた。与九郎をはじめ入り伐り立ち伐り動かして見たが、一枚の葉も動かなかつたので、並居る人々は「さてさて先生は名人かな」と心中に感じたものであつた。またこの頃、立花左近将監家来彌橋右衛門とい

う者、宝蔵院流種田流の鎗術を極め、日本武術修業として廻国し、お屋敷にきて金成与九郎、松下阿随に突き伏せられ、歯がみをして帰つて行つたのは心地よき事であつた。

時に享保七寅正月四日、これまで大稻荷の社領は高七十石のところ今般三十石の御加増になり、外に修覆料米三石を下し置かれるというので、列座において福泉寺に申渡しがあつた。

二月十一日箱根金剛玉院から願書をもって芦の湯塔ヶ島は古来権現領であるので

お返し下さるようという申出があつたが、三月十一日に先般の願筋は数十年來のことで今更返すわけにはいかないといふことで、願書は奉行所から差戻した。同十二日、殿様が四品に御昇進のため、御祝儀として寺町金太夫が舞興行を願ひ出で、その通りにおせつけられた。もっとも芝居は御家中妻子、召使等まで見物は御停止といふことであつた。しかし内々忍んで行つた者もあつた由で、お使いとして寺社手代ならびに同心、郡方町方も出役した。

江戸時代庶民文化展

— 出品お願いを兼ねて —
小田原史談会主催の「江戸時代庶民文化展」は来る十月二十八日から城内郷土文化館で開かれるが、当時使用された物なら、生活用具、台所のもの或は農具祭祠関係・古文書・なんでも結構です。是非沢山に持込んで下さい。

久野の歴史について

今度発行された久野の歴史は、希望者に応えて二百部に限り一部送料共五〇円、市内久野公民館宛。

小田原の藩政と報徳仕法覚(一)

古屋安定

鵜沢作右衛門と二宮尊徳(一)

鵜沢作右衛門は色紙と号

利三兩三歩也

して、二宮尊徳の「鉄鎌之辞」や「食富訓」を記した

辰九月初日より
一金五兩三分

彼の見事な筆蹟が現在所々に散在しているのを見るこ

利老歩ト銀式匁九分式厘とあり、此の帳簿の終りに

とが出来るが、尊徳の「小田原領明細調 巻」による

文政三庚辰年十二月晦日
栢山村
二宮金治郎

と、鵜沢は小田原藩の大勲定奉行で、御普請役を兼帯

小田原
服部十郎兵衛様
御台所衆中へ

し、高四拾石巻斗六升を食

とあるから、服部家復興のための借用であることは、

「胤之助燦知行所詰」で、御切米五石御扶持式入分、

文政四年辛巳年の「諸勘定口別控帳」には「六鵜沢作右

文政九年五月一日始めて土

謂うまでもなく、更に

分と列せられ、「御組徒格」となる。を受けていたの

文政四辛巳年の「諸勘定口別控帳」には「六鵜沢作右

だから、野州桜町で、宇津家四千石の復興に粉骨砕身の

いて、服部家と鵜沢と尊徳との関係の懸々密なるもの

の頃であったことが知られるが、それより以前、尊徳

があることが窺えるのである。

が未だ家老服部家の仕法中文政三年九月吉日の、「借用

文政四年は、尊徳三十五才の時で、服部家の仕法は

用高相改書出帳」に(以下引用書は多くは尊徳全集)

一応完了し、桜町復興の内命を受諾したので、服部家

卯十二月より借用
一金式拾五兩
鵜沢作右家門様

の残務は鵜沢が引受けてい

る。(註文政五年壬午年「服部御雑用米金預り並控帳」鵜沢氏とある)

なお、尊徳は三十才の時、服部家から帰ったのだけれども、依然服部家との関係

は続き、三十二才(文政元年)の二月に、服部家負債

整理の委任を受け、十一月に大久保侯から表彰され、

三十四才には、斗拵の改正や五常講の議を献じている

が、尊徳の個人的日記は、服部家と公私一体の形にな

っており、鵜沢との間に、多額の米金の出入りが見ら

れる。氏の頃、尊徳は服部家の負債整理のために、多

額の米の売買をしてい、鵜沢の公務の手伝いをしてい

たのではなからうか。そして、大久保侯に彼を推挙した

たのは、服部氏は勿論、鵜沢あたり力の多かつたこと

とと思う。

文政四年四月二十七日に、「新金御吹替御用」を勤めて

銭貳百文を褒美として貰うていたことも鵜沢と関連のあるように見える。尊徳

は、文政四年の八月一日に桜町へ最初の調査に出かけ

十月に帰村したが、八月十八日に、大和俗訓を三部購

入して、その一部を、「鵜沢氏え」と記しているところ

を見ると、未だ一農民としての尊徳と、勘定奉行鵜

沢作右家門との間柄が、眼に見えようである。更に

三年後の、文政七年八月十五日に、鵜沢から桜町の尊

徳に送った書翰に、以手紙申進め候、秋冷相

増候得共、先以御家内御揃、慮御安全御暮珍重御

一米価も近頃無き引上、拾九俵半位に相揃、勿論

一兩日は廿俵位之趣、当暮は余程引上げ可申と存

候、御任米も当年は如何被致候哉、否早々江戸表

へ御申越、江戸表より下拙方へ申越候様致度、此

段申進候 (以下略)

事御座候、次下拙皆々無異罷在候、乍慮外御休意

可被下候、扱又当年も度々大水にて、栢山村上手

切込、大難波致候、又候八月之大水にて、村上大

土手へ切込可申趣に付、早速罷越、人夫諸色等相

集、大勢之丹誠を以御押留、先づ大御安齋候左

も無えては、栢山村之儀は亡所同様可相成と、甚

以大心配仕候、川付組合公儀御普請にて、大惣成

出金相掛候得共、一夜之内切込不残流失敷敷事候

(中略)

一先達て金子之儀被仰遣、奉行中へも申遣候処、当

地より差遣候ては筋違に付、江戸取扱方へ申遣可

然段被仰聞候付、三幣殿も幸出府に付、奉行中よ

り委細被申遣候儀と被存候、左様御承知可被給候

一先達て金子之儀被仰遣、奉行中へも申遣候処、当

地より差遣候ては筋違に付、江戸取扱方へ申遣可

聞八月十五日

鵜沢作右衛門

二宮金次郎様

追て申進候、先達て御

同書被遣候処、其節之

御報不差出、御無沙汰

候、御高免可給候、御

家内へも宜敷御願申上

候、且御序も有之候、

と、勝候へも宜敷御願

申候、当年は志以立毛

不作にて、検見多可有

之と察居候、困り入事

候、其御地如何候哉御

序承知仕度候

(註勝候とは勘番とし

て桜町に赴任している

藩士勝俣周左衛門のこと

とと思う)

の文面から察して、尊徳の

実力は、既に主従顛倒を想

はせるに充分であり、尊徳

が小田原の藩政に一役を果

しつゝあることが、察せら

れるのである。

以下次号

原稿募集

「小田原史談」に向くよう

な原稿をどしどしお寄せ下

さい。コント風なものも結構

です。研究発表も可ですが、

成る程の可く四、五枚で分

散出来るようにお願いします。

切は随時。その他詩・短歌・俳句も可。

尊徳祭所感

米 山 要 助

去る九月二十日に尊徳翁生誕地栢山で、第六回の尊徳祭が執行されるに当たって、小田原史談会が合流し多彩な行事が繰り展げられた事は尊徳祭としても洵に喜ばしい事でありました。

前夜祭の十九日には、午後二時から史談会の方々の尊徳翁の遺跡巡りに親しく翁の行跡を追憶して頂きました。午後四時からは翁の生家の広い板の間(さしき)に饗應を延べて、斯道の大家である杉崎女史が、若いお弟子の娘様達大勢を引具して、来会者數十名を数回に分けて、古式なお茶をたて、頂きました。煤びた昔ながらの、梁むな木の子、大きないろりに下っている自在釣の鉄瓶の湯から汲みとるなよやかな娘様の手さばき所作が、闇どんの灯の薄くらがりの中にくっきりと浮ぶ——ほんとうに奥ゆかしい——ときでありました。

夜は講堂で「二宮翁を主題」にしての座談会、尙語曲「

余地なき盛況でありました。斯様にしていづにもなかつた形の史談会が極めて有意義に終った事は嬉しい事であり、又尊徳祭としてもいつにもなかつた、多彩な祭典が行へた事に感謝せざるを得ないのであります。

ともすれば史談会が、先人の残した尊い文化材を発掘珍重羅列して、独り悦に入っているだけに終りやすい自分とそれでは物たりない

小田原周辺の

遺跡分布とその概要

——繩文式文化時代について——

橋 口 尚 武

その点は今後の精査をまつとしても、繩文式文化時代早期末頃には、すでに人間が生活していた確証を得た。数年前箱根宮城野、同二ノ平、湯河原から繩文早期の土器片が発見されていたが、小田原市辺には、その可能性が予想されつゝもまだ発見されるに至らなかつた訳である。昨年発見した繩文早期の遺跡は小田原市辺五ヶ所、坊所セド山の遺跡を除いて標高二

小田原文化祭参加 謠曲と琵琶の会

十一月五日日本町小講堂で

第八回小田原市民文化祭は、十一月三日の文化の日を中心として約一ヶ月間多彩な行事絵巻を繰り展げるが、小田原史談会では、先年に引きつゞき「謠曲」と「琵琶」の会を、謠曲・琵琶の各連合会と一体になって参加することになった。

第三号

昭和三十六年十月十五日発行
(毎月一回発行)

会費 一ヶ年三百六十円
発行 小田原史談会
編集人 機関紙発行委員会
発行所 小田原市幸一丁目
郷土文化館内
小田原史談会

又勿体ない。モット／＼掘り下げてその有形無形の文化財よりにじみ出る何物かを汲み取る事を忘れるなど自分自身をいましめていませう。

それには今回の企も時間的にそうした余猶がなかつたのは遺憾に思いました。ついてはこれをきつかけに再度此の地区での史談会が企てられる事を願っている次第であります。

今日、是非調査すべき遺跡であるし、沼田近くの畑野小台地(字名)と塚原には前期の竹管文の粹をつくした土器片が出土し、その外にも二三例の遺跡が知られている。(つゞく)

<p>便利で 楽しいお買物は 小田原駅前 ㊦箱根登山デパート</p>	<p>箱根登山鉄道株式会社 電話小田原(065)4111</p>	<p>西洋料理 御土産各種 あさひ 小田原駅前 TEL2630・2681・3051</p>
--	--------------------------------------	--

<p>御料理仕出し 御弁当 株式会社 東華軒 代表取締役 飯沼相三郎 小田原駅前 TEL(065)5061~2</p>	<p>純良医薬品 株式会社 オタワラ薬局 錦通り電三、〇四八</p>	<p>化粧品 おしゃれ彩華 松屋 小田原錦通り 電話三三三三六</p>	<p>銘菓 松風 銘菓 千代菊 甘露梅 銘菓(県指定の店) 電話2376 集栄堂本店</p>
--	---	--	---

<p>平野商会 平野久雄 小田原市十字三 電話〇六五二四四九番</p>	<p>写真 イガラシ 小田原市幸3 TEL2534番</p>	<p>趣味の陶器 江島屋 小田原箱根口 電話6602</p>	<p>志澤 TEL3131</p>
--	---	---	------------------------------

<p>株式会社 小田原百貨店 社長 神戸英次郎</p>	<p>明るい生活 楽しい読書 八小堂 小田原駅前 TEL5388~9</p>	<p>小田原報徳 自動車株式会社 太陽自動車 代表者 曾我律之助 株式会社</p>	<p>伊豆箱根鉄道株式会社 大雄山線 運営事務所</p>
--	---	---	---

<p>あなたの洋品店 はふや 小田原幸町 TEL2307</p>	<p>小田原信用金庫</p>	<p>きそば庵 小田原駅前 電話二八六二番</p>	<p>松坂屋製菓本舗 小田原市十字二 電話五二七六番</p>
---	----------------	--	--

<p>高級陶器の店 小田原市緑1~103 小田原銀座通り 株式会社 江島屋陶舗 TEL035427</p>	<p>梅露衣 月の衣 小田原駅前 正栄堂菓子舗 電話 5311 5312</p>	<p>寝具の店 花田屋 小田原銀座2 電話3788番</p>	<p>カメラ・写真用品 なんでも揃う カメラの光輝堂 小田原駅前 TEL 5965 4859</p>
--	---	---	---